

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

○豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成

＜本年度の学力向上策＞

1 学校課題研究を通して教師の指導力向上、児童の意欲、主体性、粘り強さの育成

- (1) 「よい授業の4つの因子」やユニバーサルデザインを視点とした授業改善と実践をする。
- (2) 体育科の学習を通して「アクティブラーニング」の授業づくりを行う。

2 全国学力・学習状況調査とさいたま市学習状況調査の結果の分析と活用

- (1) 平成30年度のさいたま市学習状況調査の分析における成果と課題の把握をする。
- (2) 基礎基本的な知識・技能を確実に定着させ、児童の自信とやる気を育て、学校評価での「進んで学習」の項目を児童、保護者ともに肯定的な回答を85%以上にする。
- (3) 「思考力・判断力・表現力」の向上にむけて体育科の学習の中でも「書く活動」を取り入れる。

3 小中一貫合同研修会で明らかになった児童の学力の課題の克服

- (1) 今年度も、夏季休業中の小中一貫研修会で小中学校の教員で大原中学校区の児童、生徒の学力の課題について話し合い、克服するための方策を考える。
- (2) 小中一貫合同研修会で明らかになった課題を各学年で意識した授業を行う。

4 算数 IT の効果的な活用

- (1) 算数の少人数指導の効果的な活用を通して学力の向上を目指す。

＜本年度の振り返り＞

- 1 ○特に因子④の「アクティブラーニング」に関する数値は6月実施のアンケートから0.6ポイント上昇し、授業改善及び授業実践を行うことができた。
- 2 ○学校評価アンケートの「進んで学習に取り組んでいる」の肯定的な回答は児童においては、95%と高く、日々の授業実践が児童の主体的な学習につながっていると考えられる。
▲上記の学校アンケートの保護者の結果では82%と目標値をわずかに下回った。今後学校公開や授業参観などの機会を通して伝わるような工夫をしていく。
○体育の学習の中でも「書く活動」を取り入れていったことで、自身の運動技能を向上させるだけでなく、友達へのアドバイスをする意識も高まった。今後も「思考力・判断力・表現力」の向上にむけて多くの教科で「書く活動」を取り入れていきたい。
- 3 ○夏の小中合同研修会で小学校と中学校における授業改善について話し合い、共通認識のもとそれぞれの学校で授業実践を行うことができた。
- 4 ▲低学年を中心に配置できたが、中高学年にも配置できるよう工夫が必要である。

